

校長先生の初恋物語

第57話 本当のことを言います

「くだらねえな。ミッタなんてばかばかしい。おれはいやだね。」

そう言ったのは、やっぱりジャイアンでした。みんなの拍手がいっしゅんでなくなり、みんながジャイアンを見ました。

「お前たち、ちょっと前までみんなしてとっくんのことさけてたくせに、どうしちゃったんだよ。いい子ぶるなよ。」

ジャイアンの言葉には、みんなの心につきささるものがあったみたいです。たしかに、原因をつくったのはとっくんとしても、みんなしてとっくんをさけていたというのは事実です。それなのに、アマーラさんのスピーチだけで、こんなにも変わってしまうなんて、虫がよすぎです。ジャイアンの言うことも、まちがってはいないんです。

ジャイアンはみんなをせめたあと、教室を出ていこうとしました。ジャイアンはみんなとけんかになると、いつも松の木のところに行くのです。いつもは、ジャイアンが行ってしまっ、「せいせいするよ。」と言ってる人もいます。

とっくんは、このままジャイアンを行かせてはいけないと思いました。もしかしたら、学級委員になった最初の仕事かもしれないと思いました。行こうとしているジャイアンに向かって、言いました。

「ジャイアン、待ってよ。あの時のこと、今からみんなに全部言うから。」

ジャイアンは足を止めると、とっくんの方に向かってきました。

「やめろ。言うな。言ったら、ぶっとばすぞ。」

でも、とっくんはひるんだりしません。こんなところでひるんでいたら、地球の平和なんて守れません。



「ジャイアン、だまれっ。」

とっくんの迫力のあるその言葉で、ジャイアンがめずらしくひるみました。

とっくんは、きのこ君のところに行きました。きのこ君はとっくんが何を言おうとしているのか、とっくんが言う前から分かっていた。そしてきのこ君がぼそぼそと、とっくんに言いました。

「とっくん、いいよ。ぼくはだいじょうぶ。ジャイアンは、ぼくの昔からの友達なんだ。ジャイアンのこと、助けてあげて。」

とっくんはうなずきました。

「本当のことを言います。」

とっくんは、みんなの前で、ジャイアンがきのこ君を水びたしにした本当の理由を話しました。みんな、静かに聞いてくれました。ジャイアンだけは、止めるのをふりきって、いつもの松のところに行ってしまう。きのこ君がおしっこをもらってしまったこと。それをジャイアンがかくそうと思って、水を掛けたこと。

「だから、ジャイアンは、悪くないんだ。」

最後にとっくんが言ったその言葉に、みんな、うなずいていました。その場にジャイアンはいなかったけど、ジャイアンは納得していないけど、その時みんな感じたと思いました。ジャイアンも、ミッタの仲間なんだと。 つづく

次回予告

6年2組 ミッタのクラスがくやしかった日

ついに、校長先生の初恋物語も最後のお話になります。最後は、6年2組の全員の気持ちがいっになる感動のお話です。

